

農業技術センター普及指導部作物関係情報 (その6)

タイトル：水稻の生育状況（8月25日現在）について

発信日：平成23年 8月29日

内 容

- ・ 気温は、穂ばらみ期～出穂期までは、平年に比較して高温、出穂期以降も引き続き高温傾向である。日照時間は、8月に入り平年並～やや多日照で経過しており、出穂期以降は平年並みに推移している。
- ・ 出穂期は、早生品種「キヌヒカリ」は平年並み～±1日程度、中生品種「さとじまん」は平年より1～3日程度遅くなっている。
- ・ 病害虫については、一部にイネツトムシの発生が見られている。その他に紋枯病の発生が見られる。ニカメイチュウについては、場所によって被害が確認されている程度である。
また、全体的に内穎褐変病の発生が確認されている。
- ・ 8月25日気象庁発表の向こう3か月予測では、天気は平年と同様に晴れの日が多く、平均気温は平年並み～高く、降水量は平年並～多い予想となっている。

留意点

今後の水稻の技術指導において、次の点に留意する。

①成熟期は、平年の気温で推移した場合、キヌヒカリで平年並み～1日程度遅くなる傾向、さとじまんで平年並み～4日程度遅くなる傾向である。ただし、今後の天候に大きく影響される。

②早期落水をせず、出穂30日以後の落水とする。

特に毎年の傾向として、早期に落水をすると、未熟粒や胴割れ米等の障害粒が急増するので注意する。

* 湿田等排水が良くない水田では、出穂30日後までは「ひたひた水」程度の状態を保ち、田面に「ヒビ割れ」ができない様注意する。

落水時期はなるべく遅くする。特に堰を落とす時期が年々早くなる傾向にあるので注意する。

* 農業技術センター（平塚市）での品種別・作期別成熟期予測

| 品 種 名 | 作 期 | 本年出穂期 (対平年) | 平年登 熟日数 | 平年登熟積算 温度 | 本年成熟期予測 (対平年) | |
|-------|------------|----------------|------------|--------------|-----------------|-----------------|
| | | | | | 平年気温で推移 した場合 | 高温で推移の場合 |
| キヌヒカリ | 5月 下旬植 | 8月 6日 (±0日) | 39日 | 1, 030度 | 9月14日 (±0日) | 9月11日 (-3日) |
| | 6月 月上旬植 | 8月10日 (-1日) | 40日 | 1, 030度 | 9月24日 (+1日) | 9月16日 (-6日) |
| | 6月 月中旬植 | 8月16日 (-1日) | 42日 | 1, 100度 | 9月30日 (±0日) | 9月27日 (-3日) |
| さとじまん | 5月 下旬植 | 8月15日 (+3日) | 42日 | 1, 050度 | 9月28日 (+5日) | 9月23日 (±0日) |
| | 6月 月上旬植 | 8月17日 (±0日) | 42日 | 1, 050度 | 10月 1日 (+1日) | 9月28日 (-2日) |
| | 6月 月中旬植 | 8月23日 (+1日) | 46日 | 1, 100度 | 10月11日 (+4日) | 10月 7日 (±0日) |

(注) 高温年は2010年(平成22年)のデータを使用した。

－印は平年より「早い」、＋印は平年より「遅い」を意味する。

* 成熟期の判定は、積算温度は目安のため、実際的には籾の黄化歩合を基本とし、パンフレット「籾の色を見て適期収穫に努めましょう」(神奈川県農業共済組合発行)を参考に判断する。

特に、早植の「キヌヒカリ」は、高温の時期に登熟するため、籾の黄化が急激に進むので、注意が必要です。

③水温の上昇を防ぐため、掛け流しの出来る地域については、水管理を積極的に行う。

④収穫時期に注意する。

収穫が遅れると胴割米の発生がある。収穫は天候を見て適期に行う。ただし、落水は極力遅くする。

なお、高水分の収穫は、コンバインに負担がかかり、乾燥機の燃料を多く使うので注意する。

⑤コンバイン・乾燥機等の整備を行い、計画的な作業に努める。

天候状況に応じて、収穫作業が始まる前に、必ず機械の整備・点検を行う。コンバインやバインダーは、Vベルト、掻き揚げ爪、刈り刃、乾燥機は、掻き揚げ部等の残渣のチェックを行い、安全使用とトラブルの回避に努める。

⑥コンバインでの収穫作業では、刈り遅れや倒伏した場合は、株が抜けたりして小石が混ざりやすくなるので若干高刈りする。

<台風に注意!>

台風12号が接近しているので、今後の気象情報に注意する。

台風による倒伏や台風通過後の急性萎凋症等への対応

①風の影響を軽減するため深水管理を行う。

②台風通過後、水田に水がない状態で急激に天候が回復すると急性萎凋症が発生する場合がありますので、注意する。

③冠水すると、白葉枯病が伝染する危険性があるので注意する。

*事故防止の観点から台風接近後におけるほ場の見回り等については、気象情報及び周囲の状況を十分確認し、大雨、強風が治まり、安全な状況となってから行う。

連絡先

農業技術センター普及指導部 作物加工課

平塚市上吉沢1617

電話番号：0463-58-0333(内)381～384

FAX番号：0463-58-4254

E-メール：noken.fukyu@pref.kanagawa.jp